

成果指標				
成果指標	年間使用電力量(本庁舎、第1別館)÷過去10年間の平均使用電力量			
指標設定の考え方	実績値が目標値を下回ること、経費の削減につながっていると考えられる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	0	1	1	1
実績	0	0.98	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>新庁舎建設工事が2年後には完成する予定であるため、必要最小限の修繕費に止めることができた。今年度から、光熱水費について過去10年間と当該年度の使用電力量を比較し経費削減を目指すこととした。空調設備の運転時間を短縮することで、平均使用電力量406,919kwhに対し6,413kwh抑えることができた。また、本庁舎にある空調設備(2台)の夏季始動時間を調整し、瞬間最大消費電力量を抑える工夫も試みており、次年度以降の業務用契約電力の低減が期待できる。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>平成28年度に新庁舎が竣工する予定であることから、本庁舎に係る修繕費については、引き続き抑制に努める。休憩時間帯の消灯やコピー機の電源オフ、冷暖房の稼働条件とする気温設定等従来の取組みを徹底するとともに夏季の空調設備の稼働時間の調整による瞬間最大消費電力の抑制を継続して光熱水費の節減に努める。また、消費電力抑制の要請の面からの「ノー残業デー」の徹底に意を注ぐ。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題